

「学位論文に係る評価の基準」

先端学術院

人類文化研究コース

研究目的とその背景

- ・ 研究目的が明確であること
- ・ 問題意識に独創性がみられること
- ・ 専門分野に関する十分な知識を有すること
- ・ 先行研究の十分な検討がなされていること

研究方法

- ・ 独自の資料を用いていること
- ・ 資料の収集と資料の扱い方が適切であること
- ・ 分析の方法や考察が的確であること

論文の形式と表記

- ・ 学術論文としての体裁と形式が整っていること
- ・ 論旨が明確で表記が的確であること

学技術的意義

- ・ 研究目的が達成されていること
- ・ 新たな知見を提示していること

国際日本研究コース

博士学位論文は、コースの理念に則って、以下の諸点について、コースの審査担当教員と外部委嘱審査委員によって審査を行う。

- ・ 研究目的の明確さ
- ・ 収集した情報・資料の扱いの的確さ
- ・ 先行研究の十分な検討
- ・ 専門分野に関する十分な知識
- ・ 分析の方法や考察の適切さ
- ・ 論文の形式や表記の適切さ
- ・ 叙述の明確さや一貫性
- ・ 学術上の意義

日本歴史研究コース

以下の諸点により、コース内審査担当教員並びに外部審査員による検討を行う。

1. テーマ設定がどのようなオリジナルティをもっているか。
2. 先行研究の研究史整理が十分に行われているか。
3. 活用する資料の資料批判などを通じた実証性が貫かれているかどうか。
4. 論文全体が、論文構成に即して、論理的に記述されているかどうか。
5. 論文で何を明らかにし、いかに研究水準を高めたか。

日本文学研究コース

博士論文の審査は、総合研究大学院大学が定める専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に則して、次の各号に掲げる項目の評価及び博士論文の内容全体にわたる講評を行い、総合的に判定するものとする。

- (1) 研究目的が明確で、学術的意義があること
- (2) 研究目的が達成されていること
- (3) 適用した方法が、研究目的に対して有効・適切であること
- (4) 構成・形式が整っていること
- (5) 研究の目的と方法に必要な先行研究を踏まえていること
- (6) 専門分野の知識を十分に持っていること
- (7) 論理・用語・文章表現が適切・明快であること

日本語言語科学コース

1. 博士学位審査出願論文の内容に独自性があり、当該研究分野の進歩に寄与するものと認められること
2. 当該研究分野についての深い学識及び研究遂行能力を有すると認められること
3. 審査制度の確立した学術誌等に掲載されたもの又はそれに相当すると認められたものを基礎にしていること
4. 既に博士の学位の授与を受けたものと同一の論文又は同趣旨の論文ではないこと

情報学コース

情報学に関する深い学識を備え高度な専門的研究能力を有する者に学位を与える。学位を取得しようとする者は、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。博士論文の審査評価基準は以下のとおりである。

- (1) 自分の専門分野において、先端的課題を自ら設定していること
- (2) 設定した課題の解決を通して、その専門分野に十分な学術的貢献をしていること
- (3) 主体的に行った研究成果であること
- (4) 博士論文として新たに作成されたものであること。ただし、既発表の論文等を含めることができる。
- (5) 審査制度の確立した学術誌等に掲載されたもの又はそれに相当すると認められたものを基礎にしていること
- (6) 既に博士の学位の授与を受けたものと同一の論文又は同趣旨の論文ではないこと

統計科学コース

統計科学に関する深い学識を備え高度な専門的研究能力を有する者に学位を与える。学位を取得しようとする者は、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。博士論文の審査評価基準は以下のとおりである。

- (1) 博士論文として独創的であり、かつ十分な学術的水準に達していること
- (2) 出願者が主体的に行った研究の成果であること
- (3) 博士論文として新たに作成されたものであること。ただし、既発表の論文等を含めることができる。
- (4) 審査制度の確立した学術誌等に掲載されたもの又は掲載され得るものを基礎にしていること
- (5) 既に博士の学位の授与を受けたものと同一の論文又は同趣旨の論文ではないこと

素粒子原子核コース・加速器科学コース・物質構造科学コース

学位認定に際しては、専門分野における研究者として主体的な研究を遂行する能力を獲得していることを評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文は、当該分野に寄与する本質的に新しく高度な研究成果を報告することが求められる。博士論文の研究レベルは、査読付き学術論文あるいは権威のある国際会議に発表された研究、あるいはそれに相当すると認定される研究を基準とする。さらに学位認定に際しては、研究者として当該分野を俯瞰する学識の深さと、将来を展望する豊かな構想力を求める。

天文科学コース

1. 天文学および関連する分野の観測的・理論的・開発的研究であること
2. 当該分野において独創的で新たな知見を付け加える研究であること
3. 単独で遂行した研究であること（但し主たる寄与をした場合に限り複数による研究でも可とする）
4. 学位論文の研究が、査読のある欧文学術雑誌に、主著者で発表されているか、学位授与後1年以内に発表されること

なお、学位審査において研究遂行能力が備わっていることを客観的に保証するため、天文科学コースにおいては、学術論文1編（内容は博士論文に含まれるものでも、そうでなくてもよい）が出版済であることを要件としている。

- ① この学術論文は、主著である、出版済み、査読論文であり、学位審査申請時に1編以上があることを原則必要とする。申請者はこの学術論文の写しを参考論文として添付するものとする。
- ② 申請者は、予備審査申請時には、この学術論文の写しを添付するものとする。ただし、この学術論文がいまだ掲載決定に至っていない場合は、当該学術論文の投稿済み原稿であってもよいものとする。
- ③ 前2項において、研究が特許出願に関係する内容等であるなど、これによりがたい場合は別途理由書を提出し、コース長の許可を得なければならない。
- ④ 第2項において著者がA、B、C順であるなど、申請者が主著者であることがただちに明らかでないときは、複数の共著者からの証明を付すものとする。

核融合科学コース

博士学位論文は、総合研究大学院大学の理念に則って、核融合科学分野における以下の諸点について、核融合科学コースの審査担当教員と外部委託審査委員によって審査を行う。

- (1) 研究目的が明確で、(研究)成果に学術上意義があること
- (2) 研究の独創性があること
- (3) 専門分野に関する十分な知識と、国際的に活躍できる語学力を有していること
- (4) 学位論文の研究が、査読のある学術雑誌に筆頭著者で発表されているか、学位取得後に発表する予定であること

宇宙科学コース

論文は、宇宙理工学分野に関する学術的価値を有し、新規性、創造性、独創性に優れ、学問の進歩に新たに重要な貢献をなすと認められるものであることを評価基準とする。論文は、単独で遂行した研究もしくは主要な役割を果たした共同による研究に基づくものであること。

試験においては、博士の学位の授与を受けようとする者が、国際的に活躍できるコミュニケーション力と当該研究領域全般に関して卓越した知識を持ち、独立して創造的研究を遂行できる能力を獲得しているかどうかを評価基準とする。

分子科学コース

分子科学コースの学位認定に際しては、専門分野における学識の深さと自立した研究者として創造的研究を遂行する能力を獲得していることを評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文は、当該分野の発展に大きく寄与し独創的で一貫した論理に基づく研究成果を報告することが求められる。

総合地球環境学コース

博士論文審査は、次の各号に掲げる項目の評価及び博士論文の内容全体にわたる講評を行い、総合的に判定するものとする。

- (1) 研究目的が明確で、新たな学術的意義があること。
- (2) 研究目的が達成されていること。
- (3) 適用した方法が、研究目的に対して有効・適切であること。
- (4) 収集した情報・資料の扱いが的確であること。
- (5) 構成・形式が整っていること。
- (6) 研究の目的と方法に必要な先行研究を踏まえていること。
- (7) 専門分野の知識を十分に持っていること。
- (8) 論理・用語・文章表現が適切・明快であること。

極域科学コース

1. 博士学位審査出願論文の内容に十分なオリジナリティーがあり、当該研究分野の進歩に寄与するものと認められること
2. 当該学問分野についての深い学識及び研究遂行能力を有すると認められること

基礎生物学コース

本コースの学位認定に際しては、専門分野における研究者として主体的な研究を遂行する能力を獲得していることを評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文は、当該分野に寄与する本質的に新しく高度な研究成果を報告することが求められる。さらに学位認定に際しては、研究者として当該分野を俯瞰する学識の深さと、将来を展望する豊かな構想力を求める。

生理科学コース

生理科学コースは、生理科学の分野において主体的に研究を遂行する能力を有していると認められる者に学位を与える。主に博士論文によって判定するが、当該分野の発展に寄与するような本質的で新しく高度な研究成果を含む必要がある。具体的には、査読付き学術論文、あるいはそれに相当すると認定される研究を基準とする。併せて、当該分野を俯瞰する深い学識、将来を展望する豊かな構想力、英語を用いて議論・発表する能力、生命現象に対する真摯な態度、研究者としての倫理性も求められる。

遺伝学コース

本コースでは、自立した研究者としての能力を有していることを学位認定に際しての評価基準とする。その主要な判定材料となる博士論文では、遺伝学を根幹とする生命科学の分野の発展に寄与する本質的に新しくかつ高度な研究成果を報告することが求められる。研究内容が査読付き学術雑誌にすでに受理されたか、それに相当する内容を含むことが必要である。さらに、分野を俯瞰する深い洞察力、英語で理解・議論・表現する能力、研究の将来を展望する豊かな構想力、研究者としての高い倫理性を有することが求められる。

統合進化科学コース

本コースの学位認定に際しては、専門分野における研究者としての主体的な研究遂行能力を獲得しているかどうかを評価基準とします。その主要な判定材料となる博士論文は、当該分野に寄与する本質的に新しい高度な研究成果を報告する必要があります。また学位論文の内容は、査読付き学術論文、あるいはそれに相当すると認定される研究報告として発表される必要があります。併せて、当該分野を俯瞰する深い学識と、将来を展望する豊かな構想力、英語で理解・表現する能力、社会における科学と技術のあり方を考究する態度も求められます。